

- ▶ 本市では、里山の土地所有者の高齢化や、時代の変遷とともに里山自体に経済価値が失われてきたことなどから、間伐や枝打ちなどの手入れを放棄する地権者が増え、竹林の侵食などにより各地で里山が荒廃し、地域の特色ある景観が失われるといった影響がでてきている。
- ▶ そのため、「緑の保全」の取り組みの1つとして市民緑地制度を活用した里山保全に取り組んでいる。この制度は、市が土地所有者と無償の土地使用貸借契約を結び、整備や維持管理を地域団体に委託することにより、地域と協働で里山を保全するものである。

□ 事業内容

植樹等の森林整備への支援（四日市市里山保全事業）

- ・ 新たな市民緑地の開設に向けて、植樹や広場整備を対象とした支援を実施。

【事業費】500千円（全額譲与税）

【実績】広場整備 一式

（サクラやツツジなどの植樹、広場の整地）

□ 取組の背景

- ・ 神前地区では、以前から里山の保全活動に力を入れており、今回の事業実施場所においては、地域住民によりもみじの植樹やその周辺の下草刈りなどの活動が行われていた。

地域住民において今後の活動方針を検討する中、更なる整備を実施し地域の憩いの場を提供するため、市民緑地制度を活用した里山保全活動に取り組むこととなった。



（整備前）



（整備後）

□ 工夫・留意した点

- ・ 将来的に既存のもみじ並木を中心に散策路として整備し、四季折々の花木が楽しめるよう、サクラやツツジ、アジサイ、フジを植樹した。
- ・ 広場の整地の際、今後の維持管理に支障となる繁茂した竹や根を重機を使い掘り起こし撤去した。

□ 取組の効果

- ・ 神前里山を守る会が実施する市民緑地開設に向けた整備を支援することで、市民協働による里山保全の推進を図ることができた。
- ・ 新たに約0.11haの民有緑地を整備し、森林の有する公益的機能の発揮につなげることができた。

◇ 基礎データ

①令和5年度譲与額：36,274千円	②私有林人工林面積（※1）：1,012ha	
③林野率（※1）：13.7%	④人口（※2）：305,424人	⑤林業就業者数（※2）：18人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より